

Acchi Cocchi Bacchi 「Bacchi Works」 Book Launch Exhibition

会期：2020年11月21日（土） - 12月6日（日）

会場：DIGINNER GALLERY

バッジ・アーティスト高橋彩子/Acchi Cocchi Bacchi（アッチコッチバッチ）の初写真集出版記念展「Bacchi Works」Book Launch Exhibitionを開催致します。

会場では新作のバッチ作品と、写真集の販売、そしてバッチを次なるステップとして、アートピースになり得る有り様を見ていただけるよう試みます。

（*高橋がバッチとしたのは、正しくはバッジであるが、アッチコッチありきで、語呂がよく、軽快だったから。）

2003年高橋はメキシコへ渡る。当初旅行目的で渡墨した彼女は人形劇団の主宰者であるMonica Hothに出会い師事することで、様々なワークショップや人形劇作りの経験を経て、縫製のスキルを身につけた。メキシコという異国の地で、異文化同士お互いの感覚や行動に影響を与え合う環境の中、創意工夫して出来る人形は、後の高橋がつくるバッチ誕生への重要なファクターとなる。

アッチコッチバッチとはその名が示すとおり「バッジ」である。形の定まらない古布や民族衣装の端切れ、金物や廃材など、世界のアッチコッチから集めた品々を重ね、裂いてはつなぎ合わせることで、未知なる形を生み出している。バッチの素材はタイや中国、アフガニスタン、欧州から中南米と多地域に渡り、それぞれの地域の少数民族衣装の布や端材、装身具などを仕入れている。高橋が言うには、それら衣装の文様には、細かな刺繍が施されており手作業とは思えぬ美しさからは一種の念すら感じることがあるのだそう。アフガニスタンの装身具はどれも重量感があり、これを女性たちはブルカ（ベール）の下に纏っていると考えると、ふだんは抑圧されている女性たちの美しく着飾りたいという強い願いと意地のような情念を感じ、畏敬の念を抱くという。高橋はバッチを制作する時、一端に宿る誇りと、人形づくりで培った魅せる喜びを繋ぎ合わせている。

写真集には、2010年から2020年までに制作してきたバッチを厳選して特集しました。

見所は、時系列に並べずに、高橋と制作チームの勝手な解釈で、バッチを年齢分けして載せています。写真集は特装版（オリジナル・バッチ、限定20部）と、通常版（バッチ・キット付き）をご用意します。*付属のバッチは写真集に掲載されている作品になります。

会場では装飾するバッチと美術品としてのバッチも展示致します。合わせてご高覧頂きたく思います。

◆Profile

横浜生まれ。

小さいころからの憧れの存在は“のっぽさん”。

2003年、ひとりメキシコに降り立ち、

人形劇団を主宰するメキシコ人女性を師事。

帰国後も、ずっとメキシコのぼんやりとした皮膜をまといつつ、旅とつくるを繋げてかたちにしようと日々進んでいる。

・2010年より制作。様々なショップやギャラリーで、勢力的に発表をし続けている。

*略歴は[ギャラリーHP](#)を参照下さい。

[Home page](#)

[Instagram](#)

是非、貴誌・貴社にてご紹介下さいますようお願い致します。ご質問がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

.....
DIGINNER GALLERY 担当：鈴木宏信

〒152-0035 東京都目黒区自由が丘1-11-2

Tel. +81(0) 3 6421 1517 E-mail: contact@diginner.com

Web: www.diginner.com

営業時間：12:00 - 20:00 / 最終日17:00 定休日：毎週月曜（祝日を除く）

